

NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト 平成26年度活動事業報告



福島市南矢野目字夜梨 4-1
「CHANNEL SQUARE」内

事業期間

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

日にち	主な事業内容
平成26年4月5日	みんなのデータサイトしいたけ・たけのこプロジェクト開始
平成26年4月9日	真如苑事業報告提出
平成26年4月18日	理事会
平成26年4月21日	東和WBC第5回測定（～23日）
平成26年4月25日	タケダ中間報告会（仙台）
平成26年4月27日	ファントム校正（～29日）
平成26年5月11日	事業・会計監査
平成26年5月14日	理事会
平成26年5月14日	福大WBC測定説明会
平成26年5月21日	総会
平成26年5月24日	新潟健康相談会（～25日）
平成26年5月25日	福島健康相談会、ふくしまくらす交流会
平成26年6月8日	東京健康相談会
平成26年6月15日	京都健康相談会
平成26年6月29日	喜多方健康相談会
平成26年7月3日	福島愛育園での講演
平成26年7月6日	シンポジウム開催
平成26年7月6日	健康相談会、こども向け放射能ワークショップ
平成26年7月20日	ファーマーズマーケットここふく出店
平成26年7月22日	こども向け放射能ワークショップ測定体験（～24日）
平成26年7月29日	理事会
平成26年8月3日	みんなのデータサイト総会
平成26年8月24日	東京健康相談会
平成26年8月29日	理事会
平成26年9月14日	オーガニックフェスタ出店、子ども向け放射能ワークショップ
平成26年9月21日	福島健康相談会、ふくしまくらす交流会
平成26年9月28日	みんなのデータサイトリニューアルお披露目会
平成26年10月1日	みんなのデータサイト土壌測定プロジェクト開始
平成26年10月6日	平成26年度お米測定プロジェクト開始
平成26年10月17日	臨時総会
平成26年11月14日	タケダ終了報告会（東京）
平成26年11月16日	福島健康相談会（カー口福島）
平成26年11月23日	森のようちえん全国大会での講演
平成26年12月11日	福島第四小学校PTA教養委員会での講演
平成26年12月14日	ふくしまくらす交流会
平成26年12月16日	理事会
平成27年1月23日	理事会
平成27年2月1日	事務所移転作業開始
平成27年3月1日	福島健康相談会（カー口福島）
平成27年3月29日	営業再開

活動報告

●食品・環境放射能測定

昨年度から比べると、問い合わせ・測定依頼共に減少傾向にあります。

その中で、4月から7月にかけては「みんなのデータサイト」参加測定室が共同で行った「広域単品測定プロジェクト しいたけ・たけのこ」に参加して自主測定を行いました。これは、流通品のしいたけを購入して測定したり、縁故品のたけのこ(福島市では出荷制限により地元品が流通していない)を測定することで、セシウムを吸収しやすいと言われている食品の傾向を全国的に見ようというプロジェクトです。この事によって、福島県産の菌床しいたけは宮城県や岩手県のものよりセシウムの検出値が低いことが分かりました。また、たけのこについては福島県産が一番高いということで、人の手が入らない野生のものについては出荷制限が妥当であることが分かりました。しかし、今回のたけのこは縁故品として頂いたものを測定する場合もあり、自治体がただ「測ってから食べましょう」とアナウンスするだけでは田舎の生活習慣に「測って食べる」が浸透しないのではないかと感じました。

そして、当法人の最終的な測定件数は、しいたけは44件、たけのこは27件でした。この測定件数は、参加測定所の中でもトップの物ですので、みんなのデータサイトの中心団体の一つとして、プロジェクトを引っばる事が出来たと自負しています。

8月と9月については「みんなのデータサイト」のプロジェクトが終わった事もあり、測定数が27件及び40件と減っています。外部からの測定依頼がない為に自主測定がメインである事、また、みんなのデータサイトのリニューアルオープンの為に、他の測定所のデータ登録補助作業に集中した為です。

反対に、事業計画に入れておいた「お米測定プロジェクト」については、平成26年度は70件の測定を予定していましたが、44件の測定件数に留まってしまいました。これは引っ越しの時期が当初の10月から遅れた事により呼び掛けが出来なかった事や、ゲルマニウム半導体検出器のメンテナンスという複合的な理由による物です。結果的に当初に設定した事業計画が達成できなかった事になりました。

ここで、ゲルマニウム半導体検出器のメンテナンスについて説明します。秋口より冷却用の液体窒素の消費量が上がった為に、株式会社レイテックにメンテナンスに出しました。これが思ったより調整に手間がかかる事になった為に、レイテックより代替器を貸し出してもらう事になりました。ゲルマニウム半導体検出器の測定は、調整が済むまで代替器(IGC21)で運営していきます。

同じく、達成できなかった事業として、「小さな農業復興のための農産物測定」があります。

これは助成金の『赤い羽根共同募金「ボラサポ」』に申請して行う事業だったのですが、採択されなかった為に予算を確保できず、事業を行う事ができませんでした。

年度別の測定件数の増減を見ると、平成 26 年度は法人化してからでは最も測定件数が少なくなりましたが、これは前述したとおり後半における諸々の事情が影響した為です。

平成 26 年度測定実績

	NaI	Ge	合計
4 月	3	49	52
5 月	2	46	48
6 月	1	51	52
7 月	5	40	45
8 月	3	37	40
9 月	0	27	27
10 月	0	96	96
11 月	1	95	96
12 月	1	90	91
1 月	19	0	19
2 月	6	0	6
3 月	5	14	19
合計	46	545	591

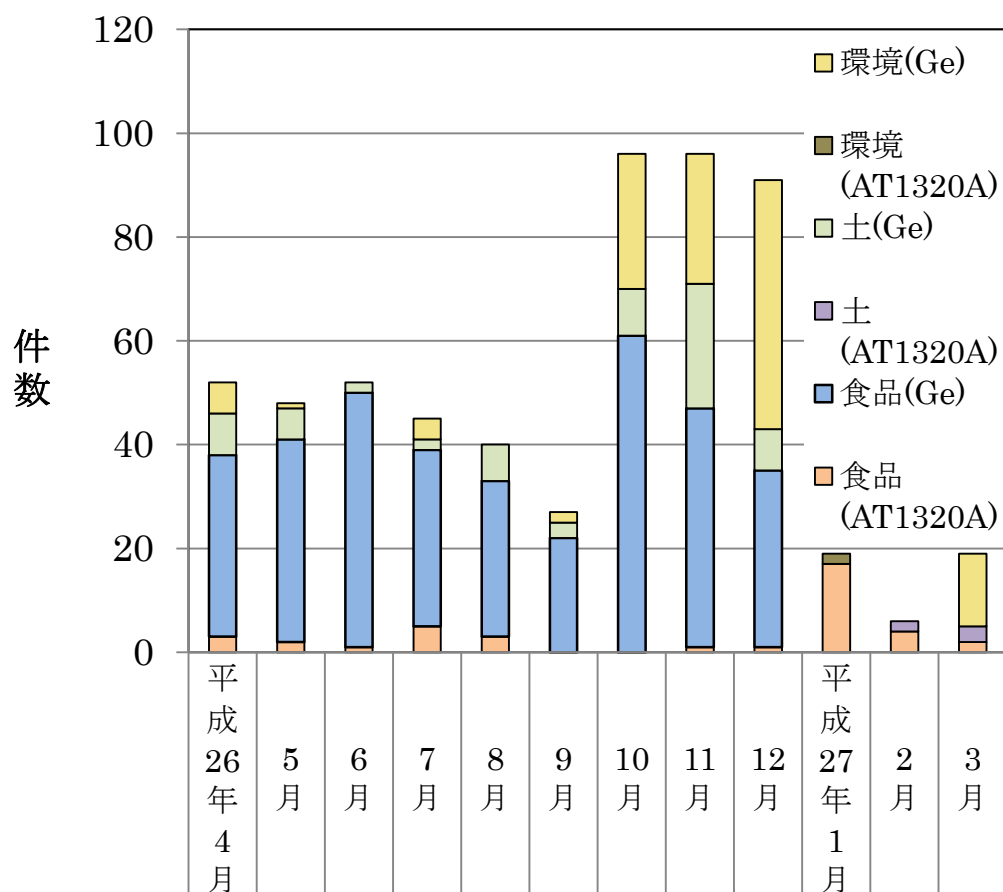
食品・環境別測定件数

食品	環境	土壌
389	128	74

年度別測定件数

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
631	794	591

平成26年度食品・環境試料測定件数



環境(Ge)	6	1	0	4	0	2	26	25	48	0	0	14
環境(AT1320A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
土(Ge)	8	6	2	2	7	3	9	24	8	0	0	0
土(AT1320A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
食品(Ge)	35	39	49	34	30	22	61	46	34	0	0	0
食品(AT1320A)	3	2	1	5	3	0	0	1	1	17	4	2

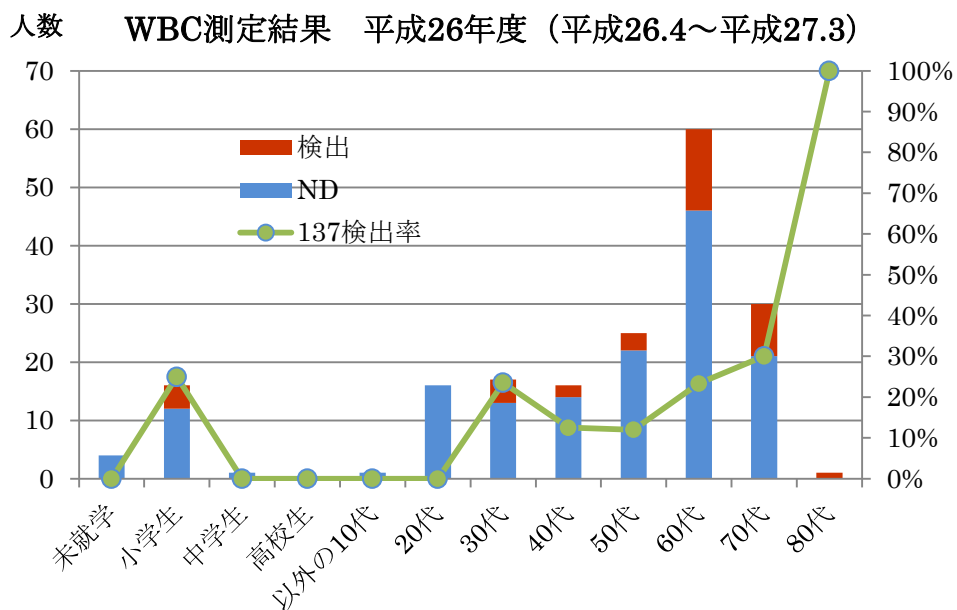
●WBC(ホールボディーカウンター測定)事業

事故後3年半の測定結果をシンポジウムで報告しました。また、ホームページにもアンケート分析と併せて公表しました。「タケダいのちとくらし再生プロジェクト」の助成金を受けて、20歳未満の無料測定に加えて、大学生、農業者への無料測定を実施しました。測定所の引っ越しがあり、2月から3月まで測定を中断しました。

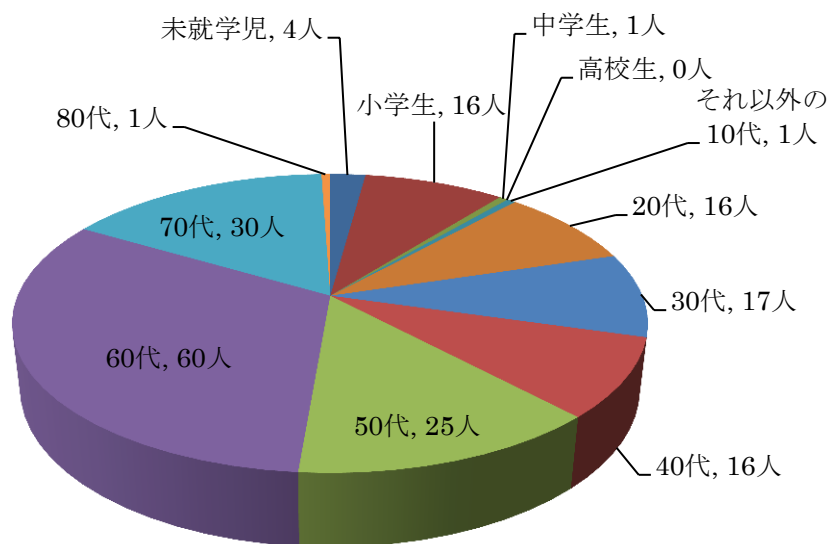
年月	WBC 事業内容
平成 26 年 4 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 5 回 WBC 測定
平成 26 年 5 月	東和第 5 回 WBC 測定結果報告
平成 26 年 4 月	福島大学 WBC 説明会
平成 26 年 6 月	放射能からきれいな小国を取り戻す会 WBC 測定
平成 26 年 7 月	WBC 活動報告 WBC アンケート結果公開(関係者に郵送・サイトにアップ)
平成 26 年 7 月	放射能からきれいな小国を取り戻す会 WBC 測定
平成 26 年 10 月	賛助会員 WBC 定期測定プロジェクト(通信による呼びかけ)
平成 26 年 10 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 6 回 WBC 測定
平成 27 年 2 月	東和第 6 回・小国 WBC 測定結果報告

1. 平成26年度前期の WBC 測定実績

平成26年度の測定総数は 187 名となっています。その大部分が定期的に測定している農業者の方々でした。なお、セシウム 137 が検出された方の人数は 187 名中 43 名(23.0%)でした。年齢が高い方ほど検出率が高くなる傾向がみられます。そのため、農業者の測定月の検出率は高くなりました。Ⅰ期からⅢ期は測定時間の違いです。Ⅲ期は 10 分測定としたことで検出限界が下がったため、経年でみるとNDはきれいに低下しません。ただし、6Bq/kg以下の方の割合は低下していることが確認されています。

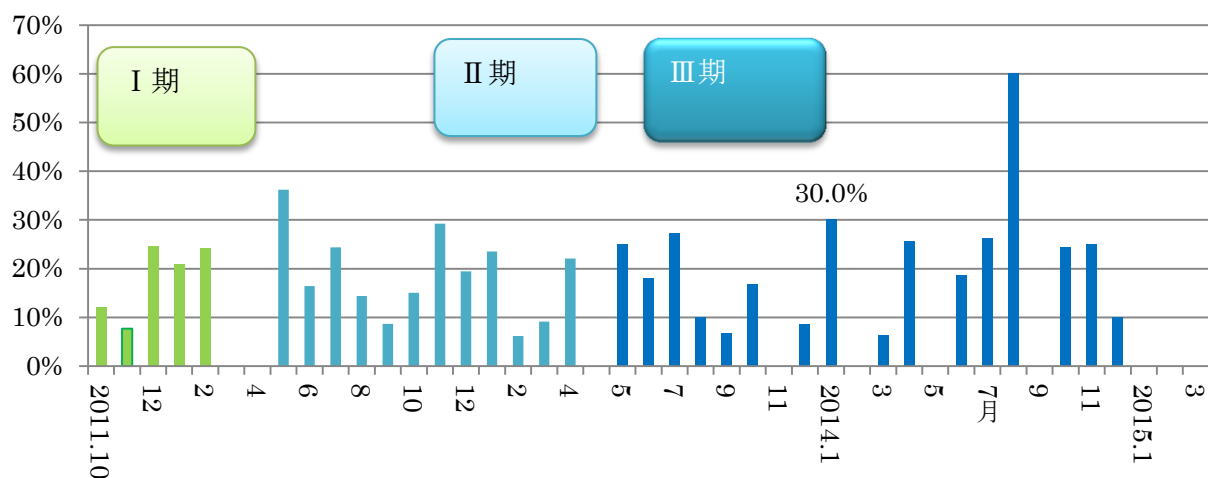


平成 26 年度 世代別測定者数



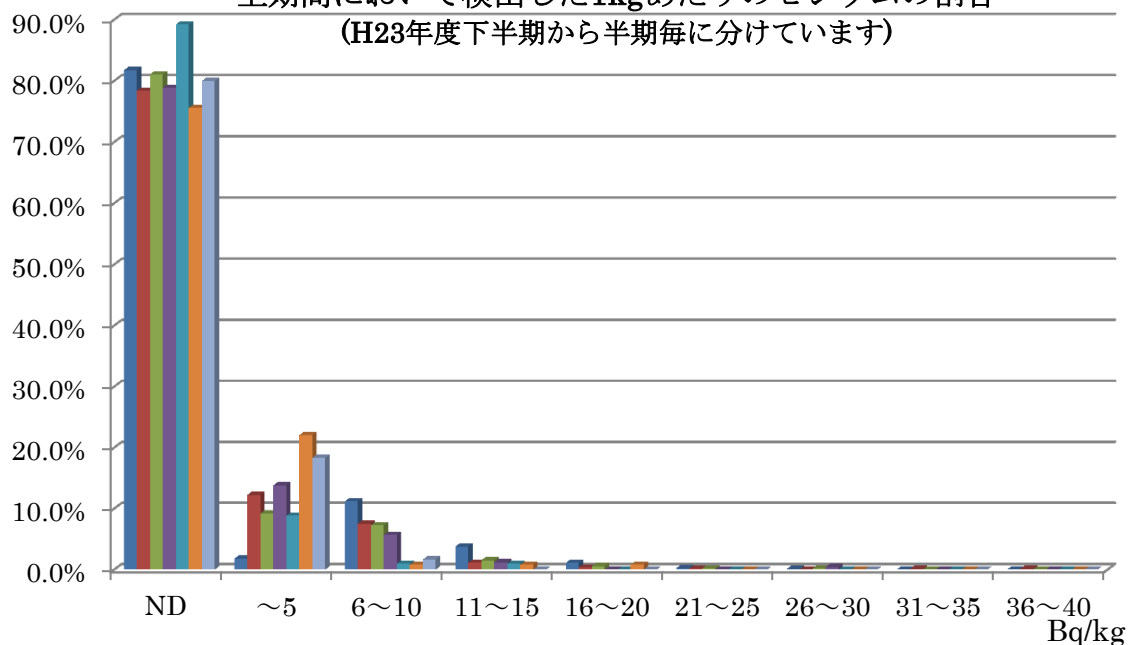
全期間におけるセシウム検出率の推移

Cs 134Cs 137のいずれか又は両方が検出



全期間において検出した1kgあたりのセシウムの割合

(H23年度下半期から半期毎に分けています)



2. WBC校正およびファントム・線源貸出事業

WBCのバックグラウンド校正および貸出等を下記のとおり4回行いました。なお、ファントム・線源は東京大学から借用しており管理運営をまかされています。

年月	依頼先	作業内容
平成 26 年 4 月	ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正
平成 26 年 5 月	キャンベラジャパン(株)	ファントム・線源貸出
平成 26 年 7 月	キャンベラジャパン(株)	ファントム・線源貸出
平成 26 年 7 月	那須保健所センター	WBC BG 校正

●健康相談会

平成26年度の健康相談会は、県内外で年間11回、述べ130人の母子の相談をすることができました。相談には、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワークの医師が応じています。

「タケダいのちとくらし再生プロジェクト」のご支援を受け、上半期は、県外で4回の健康相談に協力してきました。他県の健康相談の運営が安定してきたことと、資金的な問題から、下半期は福島市を中心に開催してきました。

覚悟をして福島で生活することを選択したり、不安を抱えながら避難を決めたりした事故当初の状況から、現在は生活に直結した内容へと相談が変化してきました。また、参加者が減少し、団体としての事業整理を余儀なくされました。しかし、同時に開催していた交流会のニーズは高まっているため、「心おきなく話せる場」を設け、より多数の方を巻き込める事業へ転換するとして、12月16日の理事会で休会が決定し、3月1日の健康相談をもって休会致しました。お世話になった皆さまに感謝するとともに、参加されたお子さまの健やかな成長を願ってやみません。

- ・ その他、健康相談では以下の事項も実施しました。
- ・ 健康ノートの配布
- ・ 陰膳調査
- ・ 野菜の販売 等

平成 26 年度 健康相談会実施状況

月日	開催場所	分類	医師数	大人	子ども 人数	備考
5 月 25 日	福島市	主催	2	3	6	午前：ふくしまくらす交流会
5 月 25 日	新潟市	協力	－	13	11	主催：こらん処よろず相談会
6 月 15 日	京都府	協力	10	18	－	主催：避難者こども相談会きょうと実行委員会
6 月 29 日	喜多方市	主催	1	5	11	主催：喜多方しゃべり場
6 月 8 日	東京都	協力	2	4	－	主催：NPO 法人ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト
7 月 6 日	福島市	主催	1	5	7	午後：講演会・報告会等 会場：青少年会館
7 月 13 日	東京都	協力	2	3	5	主催：NPO 法人ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト
9 月 21 日	福島市	主催	1	3	5	午前：ふくしまくらす交流会
11 月 16 日	福島市	主催	1	1	2	カーロふくしま
1 月 24 日	郡山市	共催	2	7	10	主催：郡山・田村母と女性教職員の会
3 月 1 日	福島市	主催	1	5	9	カーロふくしま
		合計	23	67	66	

※ 陰膳調査は 9 月末でいったん終了。

●ふくしまくらす交流会

ふくしまくらす交流会は、下記、表にあるように 3 回行いました。

在住・避難・帰還の区別なく、放射能問題に取り組む、特に子育て世代の女性たちをメインとした、交流会を行ってきました。健康相談というかしこまった形ではなく、互いに話し合うような交流会のニーズを感じ、20 人前後の参加者を募って開催しました。毎回テーマを決めて行いましたが、第 1・2 回目は健康相談会と同日開催でしたので、健康相談に協力していただいている医師にも参加していただきました。

テーマを 1 回目は「交流」、2 回目は「ナチュラル宣言」、3 回目は「親子」というようにして行い、感想については、参加者から満足といただきました。ただ、3 回目についてはチラシに具体的に行うイベントを書かなかったせいで何をするのかが伝わらず、1・2 回目に比べると訴求力がありませんでした。広報に関して当法人の弱い部分が出てしまったので、今後の改善点として重視しなければなりません。

3 回を通して手応えを感じておりますので、今後もこの事業を柱の一つとして進めたいと考えています。

ふくしまくらす交流会

	月日	場所	内容	参加人数	親	子	備考
1	5 月 25 日	福島市 イヴのもり	交流・情報交換 交流ゲーム ランチ付	36	14	22	こどもみらい測定所
2	9 月 21 日	福島市 パセナカ Misse	自然育児とは スムージ作り マクロビランチ付き	32	14	18	自然育児の会
3	12 月 14 日	福島市 チェンバ おおまち	交流会 交流ゲーム	5	4	1	
			合 計	73 人	32 人	31 人	

●こども向け放射能ワークショップ

平成 26 年度は、次年度以後の試行期間として、三回実施しました。

期日、参加人数等は別表参照ください。

① 夏休み前のシンポジウムと同日開催

主に小学生の高学年を対象として放射性物質の性質や体に及ぼす影響をボクシングのパンチに例えて説明しました。また、ホットスポットファインダーと実際に測定した映像を提示して測定することの大切さを話しました。子ども達が機器や映像を食い入るように覗きこみ興味を示していたのが印象的でした。その後、学んだことを参加者以外の人に伝える手段として新聞や絵本等にまとめる方法を示し夏休みの自由研究につなげるアドバイスをしました。

また、低学年の参加者には原発事故自体を知らないで日常的に外遊び等の制約を強いられている状況下にあることに気づかされました。

② ①の活動の発展としての放射能測定体験活動

当団体で実施している食品と身体放射能濃度測定実技体験を希望者に実施しました。

夏休みの自由研究につなげる意図もあり、高学年に集中しました。同行した保護者にとっても新鮮な体験活動であり、今後の事業化に期待の持てる取り組みでした。

ただ、機器は子ども向けに作られているわけではなく、作業条件や参加人数等工夫や改善が必要と思われます。

③ イベント会場でのこども向けお話と体験。

①の活動から得た反省の元、事故発生から現在までの福島の様子や放射能測定の必要を子ども向けに分かりやすく紙芝居風にして聞かせました。また、ホットスポットファインダーを使って実際に外に出て測定体験活動を実施しました。リアルタイムで放射能濃度が読み取れる測定体験は非常に子ども達の興味を引き出すとともに、注意すべき場所の指導にも有効でした。これは、外での活動であるので、事故のないよう十分に注意を払い行いました。これも今後の事業化に有望と思われますが、場所や指導者の人数を吟味することが必要と思われます。

※健康相談会及び、ふくしまくらす交流会・こども向け放射能ワークショップは「タケダいのちとくらし再生プロジェクト」の助成を受けて行いました。

平成 26 年度 放射能ワークショップ・測定体験 参加者数

	月日	場所	内容	参加人数	親	子	備考
1	7月6日	福島市 青少年会館	放射能ワークショップ	36	14	22	協力 こどもみらい測定所
2	7月22日 ～24日	福島市 パセナカ Misse	つなげよう！ 夏休み自由研究。 ～放射能測定体験～	11	4	7	
3	9月14日	郡山市 オーガニック フェスタ	放射能ワークショップ HSF 体験	25	途中参加、退出 もあったため 概算		協力 こどもみらい測定所
			合 計	72人			

●ホットスポットファインダー測定(空間線量マップ化)事業報告

NTTdocomo による「ドコモ市民活動団体への助成」を受けています。

子どもに関わる人たち、父母、先生、保育士などと一緒に、自分たちの子どもの行動範囲（自宅・学校・保育園・通学路・遊び場）など放射線量を測定して、結果の地図化を行い、子どもたちの外部被曝を低減するためにできることを一緒に考える機会を作ることを中心に事業を行いました。

NPO 法人シャローム災害支援センターと協働で事業を実施しました。

年間 50 カ所の測定を行う計画でしたが、下記の通り 51 カ所の測定を実施しました。

分類	測定回数
保育園・幼稚園	14 回
P T A	14 回
学童保育	10 回
児童施設・社会教育団体	5 回
自主測定	8 回
合計	51 回

① 空間放射線測定

当初は、放射線センサーを 1 個で行う計画でしたが、放射線センサーを 3 個に増やし、地上高を変えた 3 点で測定することで、標準的な高さ地上高 1 メートルと、子どもの身長に合わせた地上 50 センチメートル、地表近くの地表 10 センチメートルを同時に測定できるようにすることができ、より詳しく測定することができるようになりました。

しかし、機材の整備に時間がかかってしまい、事業が本格的に開始できたのは平成 26 年 6 月からになりました。

測定の内容は、計画していた通り、保育園の保育士さんと一緒に保育園の散歩コースを測定したり、小学生の父母さんや、学童保育の保育士さんと一緒に通学路などを測定することができました。また、公園やグラウンドなど、子どもの利用が多い場所も測定することができました。

一緒に測定して、数値化・地図化することで、子どもたちへの被曝量削減対策の大きな判断基準に活用されたと考えています。測定の結果を元に、保育園など施設の方が、市に対して追加除染を依頼したりするなど、活用されています。さらに、追加除染後の確認の測定も行いました。

② 今後の展望

現在、福島市の住宅除染の進捗率が 57 パーセントであり、道路除染の進捗率は 13 パーセントです。さらに追加除染が必要な場所も多々ある現状から、まだまだ、この測定活動が必要とされていると考えます。

今まで測定した施設や団体へ継続して経年変化を見るための測定依頼を受けるようにすることで、27 年度も同程度の測定依頼があると考えています。

その為に、測定から集計・報告及び相談までできる人材を 1、2 名程度育成する為の研修の必要があります。

● 市民放射能測定データーサイト(みんなのデーターサイト)

<http://www.minnanods.net/>

参加測定室 全国 26 の放射能測定室

登録データ数 10,216 件（当法人登録データ数 2,535 件）平成 27 年 3 月 31 日現在

土壌データ数 471 件（当法人登録データ数 2 件）平成 27 年 3 月 31 日現在

「みんなのデータサイト」は、「三井物産環境基金」の助成を受け平成 25 年～26 年 9 月を活動期間とし開始しました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、当所の様な市民による測定所が全国に数多く発足しました。しかし、せっかくの各測定所のデータや活動における情報共有も決して

相互間の繋がりを作るに至ってはおりません。そこで「未来につなげる東海ネット・市民放射能測定センター（C-ラボ）」、全国市民放射能測定所ネットワーク・世話人「こどもみらい測定所」、「認定 NPO 法人 高木仁三郎市民科学基金」、「NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト」(平成 27 年 1 月より)を幹事団体に、他団体も含めた実行委員形式で活動をおこなっています。

平成 26 年度は、4 月から 7 月に広範囲測定プロジェクトとして、全国の参加測定所と協力してタケノコとシイタケの測定を行いました。9 月にはニューサイトを立ち上げ、一般ユーザーに見やすくしました。また、参加測定所へのサポート情報も充実させています。

三井物産環境基金助成期間中の 9 月 30 日までにに関して言いますと、上記項目のうち登録件数は 8,711 件で 10,000 件に届かず、参加測定所についても 21 測定所という事で目標の 30 測定所には届きませんでした。しかし、他の件については概ね達成する事が出来、三井物産環境基金の担当者からもサイトの出来には一定の評価を貰う事が出来ました。平成 27 年 3 月 29 日には次の柱となる「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」のお披露目を開く事が出来ました。この時点で食品関連の登録件数は 10,216 件、土壌データは 471 件、参加測定所については 26 団体となっています。サイトを一つの形にした事で、今まで様子見であった団体も参加の意欲を見せてくれるようになり、また現在の柱である土壌ベクレル測定プロジェクトが参加のきっかけの一つとなっています。

他に、当法人も平成 27 年 1 月に幹事団体の一つとなりましたので、今後も運営の中心となって活動していきます。ただ、3 月 29 日に開催された「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」のお披露目になる「～知ろう！測ろう！つながろう！～ 東日本土壌ベクレル測定プロジェクト 第 1 回測定室&市民交流会」には、「CHANNEL SQUARE」のグランドオープン日と重なった為に参加出来ませんでした。

市民放射能測定データサイト
みんなのデータサイト

食品データ数(2015.04-26現在) 10223件

お問い合わせ
English site
ブログ

みんなのデータサイトとは 食品データ検索 東日本土壌測定 測定室情報 放射能関連情報 応援・寄付

ようこそ、みんなのデータサイトへ！
は喽、(すけはるくん)。
みんなのデータサイトは全国の市民放射能測定所のデータを
簡単に検索・活用できるのさ！。
みんな使ってみてね、応援よろしくネリ！

データを検索する
全国の市民放射能測定所が測定した結果を検索・閲覧できます。

品目 産地 期間 件数

食品種別を選択して 産地 期間 20

しらべる

●子どもの自然体験と交流事業

本年度から子どもの自然体験と交流(保養)事業が新たに加われました。

当法人の主催企画では実施できませんでしたが、下記団体の実施事業に協力することにより自然体験・交流事業を進めることができました。主催団体にとって当法人との協力体制が必要不可欠なものになっています。主催団体側と参加者側の間に立ち、参加者募集や受付業務を担うこともありました。

また、自然体験・交流事業参加者から測定依頼につながるなど、繋がりが生まれました。

協力先団体名	協力回数	協力人数
NPO 法人青空保育たけの子	11 回	14 人日
パルシステム生活協同組合連合会、NPO 毎週末山形	5 回	12 人日
NPO 法人シャローム災害支援センター	5 回	16 人日
NPO 法人山梨ナチュラル工房	2 回	9 人日
合 計	23 回	51 人日

●冊子・通信発行

ふくしま 30 年リポート 発行 1 回 (1,000 部)

ふくしま 30 年プロジェクト通信 発行 5 回 (各 150 部前後)

冊子・通信作成及び発送には「MS_AD_ゆにぞんスマイルクラブ」の助成を受けて行いました。

これまで冊子としては「CRMS 福島リポート」として発行していましたが、法人の名称変更に伴い「ふくしま 30 年リポート」と変更しました。シンポジウム「ふくしまでくらすためにできること～放射線の測定と教育のこれから」で発表した事業報告(食品環境測定、WBC 測定、HSF 測定、健康相談会)を元に構成して、平成 23 年 10 月から平成 26 年 3 月までの 2 年半をまとめました。

また、「ふくしま 30 年プロジェクト通信」は 10 月から賛助会員及び店頭での配布を目的に月 1 回のペースで発行しています。今までは Web にて情報を発信していましたが、インターネットをご覧にならない会員の方も多いようなので定期的に紙媒体での発信をするようにしたものです。



「ふくしま 30 年レポート」

「ふくしま 30 年プロジェクト通信」

●ふくしまでくらすためにできること ～放射線の測定と教育のこれから～

平成 26 年 7 月 6 日(日)

場所：青少年会館 大研修室

当法人主催で行ったシンポジウムです。

このシンポジウムは放射線教育をテーマに、福島市・伊達市・二本松市の教育委員会からの後援を得て行いました。郡山市立郡山第六中学校教師・佐々木清氏と NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会前理事長・大野弘達氏に基調講演を行ってもらい、原発事故後 4 年目を迎えた福島で、放射線の測定や教育とどのように向き合っていくたらよいかをテーマに行いました。また、前項でも述べましたが、当法人の活動報告を挟み、後半はパネルディスカッションを行うという構成でした。

各市の教育委員会の後援を得て 3 万枚近いチラシを配布したのですが、参加者は 100 人弱に留まりました。これはテーマが学校関係者や保護者に対して届かなかったからと推測します。これを裏付ける情報として、福島県の教育機関や福島大学がつくる「教育復興を進める会」が福島全公立小中学校に聞いたアンケート結果を平成 27 年 4 月 6 日に赤旗新聞が報じています。この中で、放射線教育は小中で 73.9%が難しいと答えたとなっています。学校現場の 4 分の 3 が難しいと答えていますので、それと呼応するように家庭でもピンときていないのではないかと思います。つまり、分からないので探究しようというよりも、触れないようにしようという心理になっているのではないのでしょうか。この点について、当法人としては、子供に対しての放射線教育にどのようにアプローチするのか、今後の課題として考えていかなければならないです。

また、全体の進行では時間読みが上手く出来ず、後半が時間に追われてしまいました。こう

いったイベントに不慣れな点が出てしまいましたので、テーマ選定とは別に次回への明確な反省点となりました。



フライヤー



パネルディスカッション風景

●講演・セミナー等

- 7月3日(木) 福島愛育園 放射線測定セミナー(清水)
- 9月14日(日) オーガニックフェスタ パネルディスカッション(佐原)
- 11月23日(日) 森のようちえん全国大会 分科会講師(清水)
- 12月11日(木) 福島第四小学校 PTA 講座(阿部)
- 12月18日(木) 食と安全[フランス](新井)
- 12月27日(土) 山形県南陽市自助グループ講演(清水)
- 3月1・8日(日) NHK BS1「地球アゴラ」出演(佐原)
- 3月12日(木) 国際地域女性アカデミー(佐原)

●名称変更

6月2日(月)に登記をし、「NPO 法人 CRMS 市民放射能測定所福島」から「NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト」へ変更しました。

当法人は、放射能測定を中心に活動を開始しましたが、ニーズが時間の経過とともに変化をとげ、それに伴い活動内容を広げていく事としました。新たな活動のイメージ認知とその向上を願い、新名称への変更をしました。

●事務所移転

この移転については「一食（いちじき）福島復興・被災者支援事業」の助成を受けて行いました。

当法人が長期にわたる活動を維持・継続するため、経費負担の少ない場所への事業所移転を目指し、平成 27 年 2 月 20 日（金）にパセナカ Misse を退去し、同日「CHANNEL SQUARE」に移転しました。「CHANNEL SQUARE」の改装工事が終わっていなかった為、実際に営業を再開したのは同施設のグランドオープンとなる 3 月 29 日（日）になりました。



テープカット（参加：佐原）

●サイトリニューアル

<http://fukushima-30year-project.org/>

サイト作成は、「一食（いちじき）福島復興・被災者支援事業」の助成を受けて行いました。

事務所移転に合わせ、広く当法人の活動を県内外・国外の方々に理解してもらう為のニューサイトを開設をしました。製作をデジタルワン株式会社に発注したことにより、今まで制限があった無料のブログサービスでのデザインを一新して、画像でアピールするようにしました。



リニューアルサイトトップページ

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上、137,664 円、物品販売売上 8,770 円

測定器レンタル利用者数 のべ 9 人